



【恵比寿大黒】 渡辺 俊治

天然の紫水晶ならではの色と模様を活かした、渡辺の得意とする恵比寿と大黒天の彫刻。元々は一体を作る予定だったが、原石を割ってみたら中の色や模様が良かったことから、2体を制作した。上に振り上げた小槌や足をかける角度などで躍動感を表現している。

一番のこだわりは顔で、頭部に透明感と輝きを持ってくるように計算されており、2体の幸せな表情がより一層際立ち伝わってくる。見ている人も笑顔になってしまう作品である。

【サイズ】 各：縦約23cm×横約12cm×奥行き約10cm *Introduction of works*
 【素材】 紫水晶



山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階
<https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>
 開館時間：10:00～17:30(最終入館17:00)
 休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、
 その他、臨時に閉館・休館することがあります。
 入館料：無料
 駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場
 (来館者は1時間無料)



職人情報誌『craftsman jewelry』へのご意見・ご感想をお聞かせください。




craftsman jewelry

craftsman jewelry file.28
 Toshiharu Watanabe
 2023 July

Vol.28

2023年7月発行

山梨ジュエリーミュージアム発行



水晶彫刻の道、65年。 これからも深く輝き続ける。

水晶彫刻との出会いと長い道のりの始まり

中学校を卒業と同時に、水晶彫刻の世界に入り、65年間。現在79歳になる渡辺。現役の水晶美術彫刻職人として、数々の作品を作り出している。中学卒業時は、建設関係の仕事に就こうとしていたのだが、当時水晶彫刻をしていた親戚でもある師匠に声をかけられ、何気なくこの世界に足を踏み入れた。

住み込みで働き始めて3年程経ち、色々な事ができるようになると、元々細かい作業が好きだった事もあり、徐々に向上心が芽生えてきた。しかし、師匠が組合等で出掛けてしまうことが多く、工房には師匠と渡辺の二人だけだったため、誰にも話を聞くことができずに苦労したという。そこで、渡辺は師匠にあらゆる工房に連れて行ってもらい、自分と同年代の仲間を作り、お互いに技術を学びあい向上していった。気がつけば、始めは何気なく入った世界だったが、技術の変化や面白みを感じるようになり、夢中になっていった。この仕事が性に合っていたのだ。ここから渡辺の長い道のりが始まったのである。

自信とともに、大きな成長を感じた時

渡辺の初めての作品は、師匠から与えられた課題の「熱帯魚」だった。当時、実物の熱帯魚を目にしたことがなかった渡辺は、図鑑などをもとに、試行錯誤しながら作ったことを今でも覚えている。それが、水晶彫刻を初めて3、4年経った頃だった。5、6年目には、少しずつ自分の思った通りの形に、彫刻できるようになってきた。

師匠は人物を作るのが得意だった。「人物が作れるようになれば、何でも作れるようになるぞ」と教えてくれた。人物には繊細な曲線や動きの表現、細部に渡る細かい作業など、難しさが詰まっているという。渡辺も人物の彫刻に挑戦していたが、自分自身満足するものが作れなかった。しかし、職人生活10年目を迎えた、昭和43年に開催された「水晶彫刻新作展」に出品した唐美人の制作で、心から成長を感じたという。「当時、この作品を作っている時は、自分がどうなってもいいくらい必死だった」と話す。普段あまり褒めない師匠も「これは間違いなく最高作だ」と心から褒めてくれた。この時、自分の中で本当の自信が生まれたという。結果も作品展で最高の「山梨県知事賞」に輝いた。

師の教えを胸に、新たな道を歩み始める

この世界に足を踏み入れて12年目の昭和45年、師匠に学んだことをもとに渡辺は独立し、自身の工房を立ち上げた。当時、山梨県では水晶産業が盛んで工房が数多く存在し、観音像や唐美人を作る職人が多かった。その中で他人と違うものを作りたいと思い、日本伝統古来の恵比寿や大黒天、七福神の彫刻に取り組んだ。それらは、渡辺の代表作になった。現在でも、人物像を主軸とし彫刻を行っており、師匠から教えてもらった「人物は、顔が一番大切」を心に、「自分が作った作品の顔は、誰にも負けん!」と胸を張る。

今でも制作意欲と向上心に溢れ、日頃から作りたい作品を考えている。旅行などに行くと、綺麗なモノや複雑なモノを見ると作りたくなってしまおうという。

「経験を重ね作りたいものが作れるようになり、良いものを作りたいと意欲が出てきて、それを乗り越えるために何度も壁にあたる。この仕事は、ここまで行ったら良いというのがない。その壁を乗り越えていくことこそが大切。いつまでも勉強だね。やめようと思ったことも、この65年間で何度かあった。そんな時も作業をしていると、ある日スッとやめたい気持ちが消えちゃうんだよ。それが職人だよ」と笑顔で話す。

伝統工芸を守り、これからも歩み続ける

現在も一点ものから大量生産までの幅広い制作を行っている。材料も天然と人工、両方の水晶を使っている。培ってきた経験を活かし、それぞれの特徴を活かした作品づくりを行っている。また、伝統工芸を次世代へ伝えるために、山梨県水晶美術彫刻協同組合の理事として、後継者育成などへ積極的に参加している。少し前までは、地元の小学校の仕事場見学や山梨ジュエリーミュージアムの実演などの活動に積極的に取り組んでいた。

水晶彫刻の世界へ飛び込み、歩み続けて65年間。今でも自分の作品を見てくれた人が、喜んでくれたり驚いてくれることが一番嬉しいと、この世界へ誘ってくれた師匠への感謝を胸に、今日も工房で水晶彫刻に向きあっている。



渡辺 俊治 (わたなべ としはる)

甲州水晶貴石細工伝統工芸士
一級宝石研磨士 (厚生労働省認定)
やまなしの名工 (山梨県知事表彰)

伝統的工芸品産業功労者等表彰 経済産業大臣表彰 等

渡辺 水晶彫刻
山梨県中央市上三条 243-19
Tel: 055-273-4368



craftsman jewelry